

ホーム > 市民レポーター > 今年も『ハーブ鑑賞会』が開催されました

今年も『ハーブ鑑賞会』が開催されました



今年も東久留米市立第九小学校で3年生を対象とした「ハーブ鑑賞会」が開催されました。この素敵な会は今年でなんと6回目。第九小学校の3年生が育てた大根が緑で生まれたこの鑑賞会、これから先も長く続くといいですね♪

【☆大根がとりもつ素敵な緑☆とは…。第九小学校の野菜栽培でお世話になっている野菜名人 金子 操さんが、6年前にハーピスト伊佐津綾子さんのお母さまへ、チャリティーのための料理に使う、葉つき大根を届けた事が始まりだったそうです。実は、その大根を育てたのが第九小学校の3年生で、そのお礼にと毎年ハーブ鑑賞会が行われることになったそうです。】



チター奏者の永谷 義篤さんが楽器の説明をしてくださいました。子どもたちも見たことのない楽器に興味深々ようです。

チターはアルプス地方の楽器で、日本で見られるのは大変珍しいそうです。

永谷さんが奏でてくれたチターの一番高い音と一番低い音には子どもたちからは「おお～」という声ももれていました。

永谷さんはチターを学ぶのに、日本には先生がいなかったため、外国まで行って勉強されたそうです。

子どもたちに「気に入ったものがあれば、ぜひそれを学んでください。」とおっしゃっていました。



学校近くにある「こもれび滝山」のみなさん。

この中のお一人のご婦人はなんと、チター演奏の経験者だそうで、演奏を楽しみながらご自身の手も演奏をするように動いていたのが印象的でした。

演奏曲は『第三の男』。

『第三の男』という古い映画のテーマ曲ですね。最近ではピールのCMで耳になじんでいるかたも多いでしょう。

チターの音色は軽やかでなんだか懐かしく感じます。

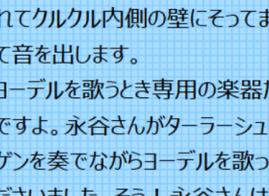
チター奏者の永谷 義篤さんが楽器の説明をしてくださいました。子どもたちも見たことのない楽器に興味深々ようです。

チターはアルプス地方の楽器で、日本で見られるのは大変珍しいそうです。

永谷さんが奏でてくれたチターの一番高い音と一番低い音には子どもたちからは「おお～」という声ももれていました。

永谷さんはチターを学ぶのに、日本には先生がいなかったため、外国まで行って勉強されたそうです。

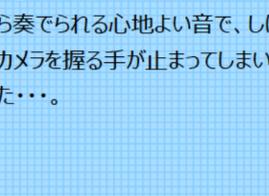
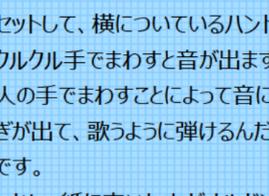
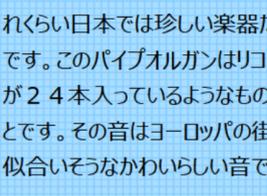
子どもたちに「気に入ったものがあれば、ぜひそれを学んでください。」とおっしゃっていました。



伊佐津綾子さんによるハーブの演奏です。

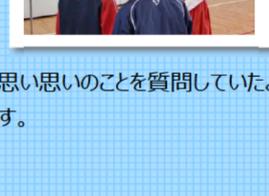
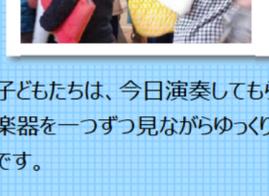
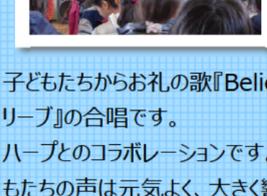
ハーブの音色は気持ちを豊かなものにしてくれますね。厳かなようで優しく、それでいて凛としているような…。

現実を忘れさせてもらいました♪ 子供たちも静かに聞き入っています…。

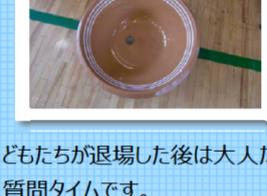


ここで伊佐津さんからのクイズです。『さつき、永谷さんがチターには弦が42本あると教えてくれました。では、ハーブの弦は何本でしょう？』

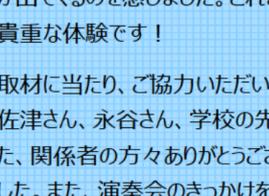
子どもたちからは積極的に手が上がります。『50本！』『おいしい！』『60本！』『う～ん、もっと少ない』と、伊佐津さんと子どもたちの元気で楽しいやりとりが続きます。『47本！』『正解！都道府県の数とえておくといいですね。』。確かに覚ええました！ちなみにハーブは30◆もあるそうです。



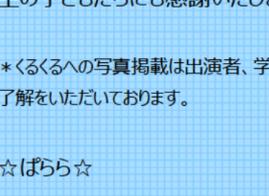
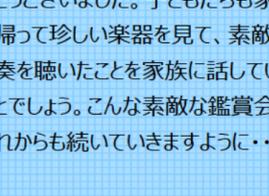
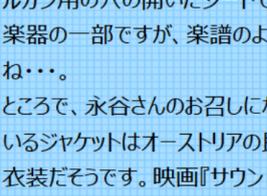
『今日、この演奏会があったことをおうちのの人にぜひ話してください。そこから、「今日はこんなこともあったんだよ」と今日あったことの話をしてみてください。ゲームばかりじゃなく、家族の会話を楽しんでください。』と伊佐津さんの言葉。本当にそのとおりです。その言葉、うちの子にも聞かせたいです…。



ターラーシュピングンを子どもたちに見せてくれました。私も見たい、僕も見たいと、永谷さんの周りにはかけよる子どもたち。



ターラーシュピングンを子どもたちに見せてくれました。私も見たい、僕も見たいと、永谷さんの周りにはかけよる子どもたち。



ターラーシュピングンを子どもたちに見せてくれました。私も見たい、僕も見たいと、永谷さんの周りにはかけよる子どもたち。



ターラーシュピングンを子どもたちに見せてくれました。私も見たい、僕も見たいと、永谷さんの周りにはかけよる子どもたち。



ターラーシュピングンを子どもたちに見せてくれました。私も見たい、僕も見たいと、永谷さんの周りにはかけよる子どもたち。

